

「大分市都市計画マスタープラン」改定に伴う基本方針の市民意見公募  
 において寄せられた意見等の概要とそれに対する本市の考え方

意見提出期間：令和元年11月25日（月）～令和元年12月24日（火）

意見提出者数： 1名

意見件数： 1件

質問 番号	意見概要	パブリックコメント意見（概要）	意見に対する本市の考え方
①	<p align="center"><b>植田地区拠点形成の方針について</b></p>	<p>人口減少と超高齢化社会時代における大分市都市計画マスタープラン改定に際し、「最適化」をキーワードとして下記を提案します。</p> <p>最適化とは、地理的空間、時代、そして社会変化や環境変化に対応するための、人の生活と都市計画との最適化を意味します。</p> <p>具体的には、地区別構想の中で、植田地区について下記を提案します。マスタープラン12頁には次のように記述されています。</p> <p>「(d)植田地区拠点・市・玉沢地区については、隣接する由布市挾間町と中心市街地を結ぶ交通の要衝でもあることから、商業・業務機能の集積による地区拠点の形成を図ります。」</p> <p>これを、「(d) 植田地区拠点・市・玉沢地区については、隣接する由布市挾間町と中心市街地を結ぶ交通の要衝でもあることから、市街化調整区域の計画的な市街化区域への見直しを含めて、商業・業務機能の集積による地区拠点の形成を図ります。」との表現に変更すること提案します。</p> <p>理由は、農業の後継者不足と土地の最有効活用です。特に、周辺の農用地と地理的に隔絶された形になっており、農業振興地域から除外されているエリア等においては、地権者の高齢化や後継者難への対応から農地転用が求められています。</p> <p>また、この地域は、トキハわさだタウンを中心に植田地区の商業・業務機能が集積しており、農用地としての利用よりも商業・業務地区としての利用が最有効活用と考えます。</p> <p>以上、植田地区の都市計画最適化を提案します。</p>	<p>本計画では、都市づくりの基本方針の一つとして「ライフスタイルを豊かにする快適で安全な住環境と地区拠点を中心としたコンパクトな都市づくり」を掲げており、市民一人ひとりが豊かさを実感できる快適で住みよい環境の創出を図るとともに、多極ネットワーク型集約都市を目指し、広域都心と各地区拠点を中心とした都市機能の集積・強化、効率的かつ健全な都市の発展に資する土地利用などを図り、市域全体の暮らしやすさや地域活力の維持・増進に努めることとしております。</p> <p>また、市街化調整区域の土地利用につきましては、昨年度策定した大分市立地適正化計画における「都市機能誘導区域」と隣接する地域であり、かつ、幹線道路の沿道で基盤整備が行われているなど計画的な市街化が見込まれる地域については、市街化区域への編入や土地利用の規制緩和について検討を進めることとしております。</p> <p>つきましては、今後、ご提案いただいた「市・玉沢地区」をはじめ、本市における市街化調整区域の土地利用の在り方につきましては、継続した検討を進めてまいりたいと考えております。</p>